

2011年度（社）札幌青年会議所 八月「力強いまち構築」例会

「青年による札幌のための討議会」

事業報告書

平成23年11月

社団法人札幌青年会議所

札幌市

目次

第1章 開催概要等.....	1
1 開催目的.....	1
2 事業概要.....	1
(1) 参加選出.....	1
(2) 開催日時等.....	1
3 会議の参考事例.....	2
第2章 会議の実施方法.....	3
1 参加者選定の流れ.....	3
2 当日のスケジュール.....	3
3 基本的なルール（進め方）.....	3
(1) グループ編成.....	4
(2) 時間配分.....	4
第3章 討議会の実施.....	5
1 市長懇談会.....	5
(1) 上田市長からのビデオメッセージの概要.....	5
(2) 渡邊副市長の講演概要.....	5
2 札幌の現状を知る情報提供（講師 飯田俊郎氏 札幌国際大学教授）.....	5
3 グループディスカッション（講師 酒本 宏氏 株式会社K I T A B A代表取締役社長）.....	9
第4章 アンケート結果.....	14
第5章 会議の検証.....	21
1 参加者の選定について.....	21
2 会議の運営について.....	21
(1) 会議の日程について.....	21
(2) 経費について.....	21
(3) 会議資料について.....	22
(4) 討論の方法.....	22
3 その他.....	22
(1) 参加者の情報公開について.....	22
(2) 参加者人数について.....	22
(3) 広報について.....	22
第6章 討議会を受けての札幌市の在るべき姿について.....	24
1 札幌市の公認キャラクター.....	24
2 市民へのアプローチ方法の模索／情報の発信・受信のインフラ整備.....	24
3 世代を超えた意見交換の場の提供.....	25

第1章 開催概要等

1 開催目的

札幌市では、平成19年に「自治基本条例」が施行（制定は同18年）され、自治体も市民が主役のまちづくりを推進してきましたが、行政の呼びかけによって市民会議が開催されるものが多く、市民が主体性をもって活動するまでには環境になるには、道半ばの状況です。力強いまち札幌を目指すためには、誰もが自分の力を発揮でき、健やかに暮らせるまちであるとともに、日本や世界に向けて魅力を発信し続けるまちでなくてはなりません。そこで、J Cが市民のリーダーとして、また「さっぽろまちづくりパートナー協定」を締結した事も踏まえ、行政と市民との橋渡し役として率先して行動し、市民が主体となった市民主導のまちづくりに参画できる場を創出していく必要を感じております。

J Cが札幌市との協働のもと、行政と市民との橋渡し役として率先して行動する必要性を認識したうえで、市民の声や想いを届ける場を創出し、市民主導のまちづくりへのきっかけとします。

2 事業概要

(1) 参加選出

J Cの会員が20歳から40歳までの青年層であること、また今後のまちづくりを支えていくのに同世代の運動が不可欠であると考え、住民基本台帳から無作為抽出した20代・30代の市民2,000人に参加依頼の文章を送付し、承諾された方61人を選出いたしました。（その後、4人が辞退しました。）

また、行政と市民との橋渡し役としてJ Cメンバーも参加しました。

(2) 開催日時等

平日に勤務の方にも参加しやすいよう、土曜日の開催としました。また、仕事として責任感を持った参加をしていただくため、参加者には謝礼のお支払いをしました。

【日 時】 平成23（2011）年8月27日（土）

13:00～16:20

【場 所】 北海道経済センター（中央区北2条西1丁目）

8階 Bホール

【参加者数】 市民 57名

男性26名 女性31名

10代=2名、 20～24歳=16名、 25～29歳=4名

30～34歳=11名、 35～39歳=21名、 40歳以上=3名

J C 99名

傍聴者 17名（内、市議会議員・プレス各1名）

3 会議の参考事例

市民の市政参加の手法は多くありますが、ほとんどの手法は参加者本人の強い動機による参加です。このような市政への参加では、消極的で物事を言わない人々（いわゆる「サイレントマジョリティー」）の参加は極めて少ないのが現状です。ソーシャルデザインの実現には、地域全体の意見をより多く集め、議論し、実施に移していかなくてはなりません。

これを実現する最適な手法の一つに1970年代にドイツで考案された『プラーヌクスツェレ型市民討議会』があります。プラーヌクスツェレは、討議対象者を無作為抽出により選出することで物言わぬ市民（サイレントマジョリティー）の声を抽出することができ、地域の縮図を反映することができる効果的な手法としてヨーロッパで広く活用されています。

日本では（社）東京青年会議所によって日本版にアレンジされた『市民討議会』として2005年に産声をあげました。以降、関東ブロックを中心に2010年まで100回程度開催されており、開催形態も今では多様化しJ C単独開催だったものが行政とJ Cの共催、さらには行政の単独開催にまで発展している地域があります。

第2章 会議の実施方法

1 参加者選定の流れ

札幌市民2,000人から無作為抽出(20代・30代)

↓

参加依頼書を送付

↓

61人が参加承諾

↓

参加決定通知の送付

↓

57名による討議会開催

2 当日のスケジュール

受付 くじ引きによる座席決定 → 1テーブル各4～5名

↓

趣旨説明

↓

市長懇談会(上田市長欠席により渡部副市長、加えて上田市長のビデオメッセージ披露)

↓

札幌市の現状を知る情報提供

↓

討議会(グループディスカッション)

↓

グループ発表(時間制約があり2グループ)

↓

総括

↓

閉会

3 基本的なルール(進め方)

- ・各テーブルのファシリテーターはJCメンバーを1人ずつ配置することとします。
- ・ファシリテーターに下記10項目を周知し、円滑な討議進行を促しました。
自己紹介 → 初めに論点を提示する → 明るい雰囲気をつくる → 発言のバランスをとる →
→ 「なぜ」を大切に議論をする → 確認しながら議論を進める → 柔軟に対応する →
→ 参加者から学ぶ → わかりやすいまとめを行う → 参加者の感想を聞く
- ・意見の取り纏め手段として各テーブルに ・カラーペン ・ふせん ・模造紙 を配布し、意見をその都度文字に記して残していく。

(1) グループ編成

4～5人のグループを12テーブルに分け、各1名のファシリテーターをJCメンバーから選出し、配置しました。

座席割は、受付でのくじ引きをもって決定し、男女構成などにとらわれない構成としました。

(2) 時間配分

合計90分間

- | | |
|------------|-------|
| ① 講師からの説明 | (10分) |
| ② ディスカッション | (65分) |
| ③ グループ発表 | (10分) |
| ④ 講師からの総括 | (5分) |

第3章 討議会の実施

1 市長懇談会

予定していた上田市長との懇談会が中止となり、代わりに上田市長からのメッセージビデオを上映したのち、札幌市の現状について渡部副市長よりお話をいただきました。

(1) 上田市長からのビデオメッセージの概要

今年3月11日に発生した東日本大震災を受けて、「今、自分たちに何ができるのか」というのが、今回のテーマであるが、私は、被災地での地域の支えあいの姿に、世界中が賞賛したことを見ても、地域の共助の大切さを痛感したのではないかと思う。

16年前の阪神大震災では、生き埋めになった人の約8割が、地域の方に救われたというデータあり、その後、「市民力」「民間力」の重要性が再認識され、市民参加が注目されている。

これからは、市民、町内会、NPO、企業、行政が、それぞれの役割を担って、自分たちのまちを創っていくことが重要であり、皆さんも地域に参加することや行政に意見する・提案することなど、自分たちにできる「まちづくり」を見つけてほしい。

「今後の“札幌”はどうあるべきか」「わがまち“札幌”に何ができるか」をそれぞれで問いかけ、自分たちの提案や意見を発表する有意義な機会になることを期待している。

(2) 渡邊副市長の講演概要

札幌市のまちづくりの基本は、地域づくり。

例えば、子どもを産む、育てることは、昔は地域みんなで行っていたが、今は、学校、塾など、つながりが狭まってきているのではないかと。

地域に子どもが溶け込む、それが社会性を育み、人間性を育ててきたが、現代社会では、地域のつながり、人と人のつながりが希薄になってきており、子どもが社会性を学ぶ機会が少なくなってきたように感じる。

学校での教育とともに、地域で社会性を学ぶことも重要であり、そのためには、地域に住む大人一人ひとりが、子どもを含めたみんなの地域コミュニティを築いていく必要がある。

子どもから高齢者まで、みんなが暮らせる地域づくりを、市民みんなで築いてほしい。若者の地域のまちづくり参加が、札幌市のまちづくりの原動力である。

2 札幌の現状を知る情報提供（講師 飯田俊郎氏 札幌国際大学教授）

「青年の市政参画の意義と課題」をテーマに、

- ・札幌の魅力・まちづくり・地域コミュニティへの関心・意識について
 - ・イベント・ボランティア・子育ての事例を交えた地域参画の実態紹介
 - ・なぜ、市政参画が必要なのか？
 - ・青年の市政・まちづくりへの参画促進の方策
- についての説明を行いました。

青年の市政参画の意義と課題 —札幌市の現状を知る情報提供—

青年による札幌のための討議会
2011年8月27日
飯田俊郎(札幌国際大学)

市政参画

PLAN... 市政の企画・立案への参加
DO... 市政の実施・実行への参加
CHECK... 市政の点検・評価への参加
ACTION... 市政の改善・処置への参加

役所任せにしない ⇒ 単なる下請はしない
新しい公共の実践 ⇒ 新しい現場をつくる



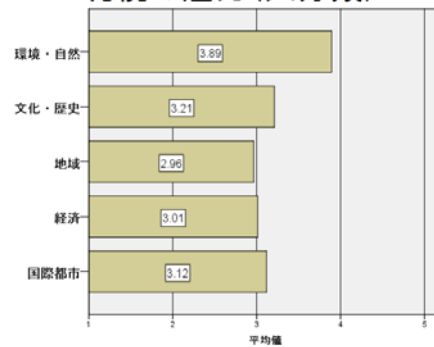
お話の流れ

1. 討議会参加者の意識
札幌の魅力、まちづくり・地域コミュニティへの関心
2. 地域参画の先進事例
イベント、ボランティア、子育ての事例
3. 地域参画から市政参画へ
そもそもなぜ、市政参画が必要なのか
4. 青年の参画促進の方策
地域社会・青年会議所(JC)への提言

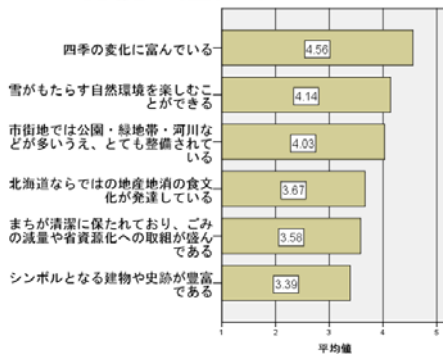
1. 討議会・参加者の意識

- 平成23年8月調査、38人の回答
- ①札幌の魅力は、「都市と自然の調和」であるが、これを伸ばすことは当面の課題ではない。
- ②雇用・起業・国際交流の活力が弱いことなど、特に経済的な課題に関心がある。
- ③まちづくり・地域コミュニティへの関心は、少子高齢化・地域福祉・保健医療に向けられている。
- ④地域コミュニティの具体的な問題よりも、将来のための組織づくり・人材育成や、市政への参加促進に関心が高い。

札幌の魅力(大分類)



札幌の魅力(ベスト6)

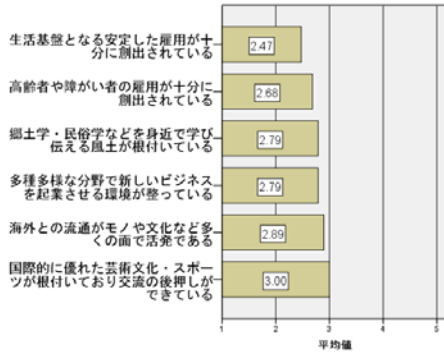


自然の豊かさと街並みの美しさを評価

<自由回答の整理>

- 「都会と田舎の間」「住みやすい」「便利」
→ 中庸の魅力、適度な都会性
- 「自然が豊か」「涼しい」「天災が少ない」「季節感」
→ 自然・気候の好み
- 「明るい、さわやか、清潔」「人々が温かい」「観光客が来る」
→ くつろげる雰囲気

札幌の魅力(ワースト6)

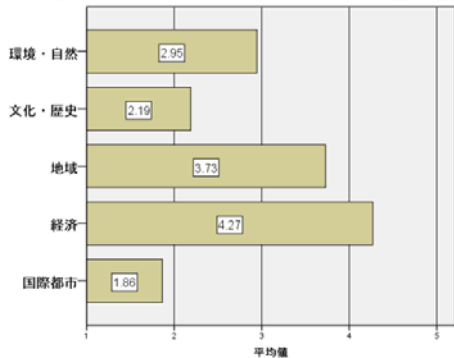


景気・雇用の停滞・悪化を憂慮

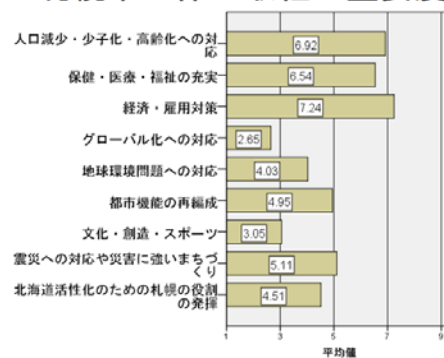
<自由回答の整理>

- ・「給与水準が低い」「貧しい世帯が多い」「地域格差」
→ 景気対策
- ・「運転マナー悪さ」「防犯面が不安」「ゴミのマナー」
→ 安全安心
- ・「中途半端」「雑然」「文化がない」「ちょっと後ろ向き」
→ 魅力・活力の向上
- ・「車依存、冬道の渋滞、道路の除雪」「中心部に集中、交通が不便」
→ 冬期交通

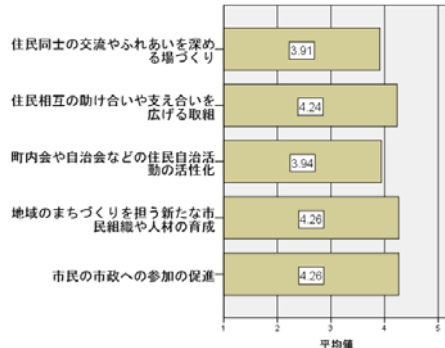
札幌魅力⇒まちづくりの重要度



札幌市全体の取組の重要度



地域コミュニティの取組の重要度



2. 地域参画の先進事例

- ・「新しい公共」の実践をピックアップ
- ①学生まちづくりコンテスト
- ②成人式実行委員会への若者の参画
- ③EN PROJECT JAPAN の震災ボランティア
- ④本郷通り商店街×みちのく会のイベント
- ⑤プレーパーク(冒険遊び場)
- ⑥おやじの会

①学生まちづくりコンテスト



「大学生の活動に継続性を求めるな」
→ 先輩の企画継承では燃えない
→ 大学生は先駆け、中高生が継承

- ・呼びかけ式
- ・公募式
- ・自主運営式



②成人式実行委員会への若者の参画



- ・青森市では教育委員会の発案で1995年から導入
- ・成人式の今日的な意義の見直し(若者の意識の把握)
- ・札幌市: 青少年育成委員会による企画の行き詰まり
- ・「二十祭まちだ実行委員会」の7部会(メイン、企画、宣伝広報、プラネタリウム、スポーツ、音楽、フットサル)

③EN PROJECT JAPAN の震災ボランティア



- ・実行委員長はミスターコンサドーレ札幌の曾田雄志氏
- ・スポーツを中心とした様々な文化活動を通じて、地域活性化活動を北海道から発信する。
- ・実行委員は、写真家、書道家、リフォーム業、イベント業、焼肉屋、ボランティア団体、デザイナー、弁護士など
- ・札幌市・北海道教育委員会・日本赤十字社が後援
- ・札幌市社協のボランティア・バスとは補完的な関係

④みちのく会 × 本郷通り商店街のイベント



一時移住者・移住者の自助団体とその支援者が、商店街の桜まつりに合流して開催。



全国から宅配便で古着を送る

古着が倉庫に集められる

被災者の雇用（倉庫での仕分け作業など）

支援品として被災地へ届けられる

売上げて還元

被災者の情報を知る事が出来る

宝島のリサイクルショップで販売

実行委員長の湊源道氏はリサイクルショップ経営者で本郷商店街理事

⑤プレーパーク(冒険遊び場)

- ・デンマーク発祥・世田谷經由
- ・住民自身による遊び場作り
- ・被災時の神戸の公園にて→



札幌の火付け役は西岡公園管理事務所の金由貴子さん
西岡公園、川下公園、農試公園、中島公園で活動中

⑥おやじの会



←札幌で最も若い街で、新旧住民の架け橋となる事が期待される
屯田小・親父の会

類似中「平成おやじの会」は平成12年度発足。中学の父親の会は珍しい。HP、メーリングリスト、OB会員などの新機軸を打ち出す。



3. 地域参画から市政参画へ

<行政と住民の相互不信>

- ・行政の巨大性と不透明性 ← 住民の依存と不信感
- ・行政の過度の専門化・規制 ← 住民の関与を嫌う行政
- ・名ばかりの住民参加 ← 下請仕事で意欲喪失

<悪循環を解消する地域参画>

- ・徒歩圏内の住民自治 ← 政治的有効性感覚の回復
- ・住民・行政の協議・協働 ← 行政依存より柔軟・効率的（町内会ごとの除雪ルール設定。選べば納得する住民。）

<地域参画から市政参画へ>

- ・市政の意思決定への参画 ← 地域での成功体験が支え

4. 青年の参画促進の方策

<地域社会への提言>

- ・地域企業と連携し「福まち」をボランティア団体に再編
- ・地域の除雪団体を結成しコミュニティビジネスを展開
- ・青年による「高齢単身世帯」の見守り活動を促進
- ・男性の子育て参加、生徒・学生の地域参画の拠点として児童会館を再編

<青年会議所(JC)への提言>

- ・青年WEBモニター制度を発足し、シンクタンクとなる
- ・青年の市政への意見を代弁し、市政参画の窓口となる
- ・青年向けの新規ビジネスのためのマーケティングを行う

ご清聴ありがとうございました

3 グループディスカッション（講師 酒本 宏氏 株式会社KITABA代表取締役社長）

討議会の本質であるグループディスカッションを行いました。

冒頭で、進行方法やマナーなどについて講師より説明を行いスタートいたしました。

札幌市やまちづくりに対する各々の想いを発表し合いながら、若者がまちづくりに参画していくためのアイデアを交換し、出された意見を最終的に3項目に絞り込む作業を行っていただきました。

時間が限れていたため場内での発表は2グループのみとなりましたが、各テーブルとも活発な意見交換が行われておりました。

ワークショップの目的と進め方

まちづくり……？

- 「まちづくり」と言われると難しいそう。
- 「まちづくり」で、強制的に何かしなければならないイメージがする。
- 「まちづくり」で、関係なさそう…etc




本日のテーマとプログラム


- もっとよくなる札幌のまち
まちづくりにどのように参加するか

- ① 自己紹介(5分)
 - 初めての人はばかりです。簡単でも自己紹介を
- ② 札幌市・まちづくりに対する想い(20分)
 - 好き・嫌いでも結構です。でも理由を整理してください
- ③ 若い人のまちづくりへの参加のアイデア(35分)
 - 若い人がまちづくりに参加するための様々なアイデアを自由に出してください
- ④ グループの意見のとりまとめとグループ内での確認(5分)
 - グループで重要と思うアイデアや提案を9つに絞り込み横道紙に書き込んでください

札幌への想い〜こんなふうになったらいいな



若い人がまちづくりに参加するためには？



若い人が
まちづくりに
参加するための
3つの提案

本日のワークショップの3つのマナー

- ① 自分の意見は手短かに話しましょう
 - 少数で議論しているとはいえ、できるだけ多くの意見を引き出すためには、できるだけ手短かに話をしてもらうようにしましょう。3分以上の話は、聞くほうも集中力が切れてしまうことを参加者に伝えるのも時には効果的です。
- ② 他人の意見はしっかり聞きましょう
 - 人数が多いテーブル議論では、発言者とは別の数人が違う話題で話を始めてしまうことがあります。議論を深めるためには他人の意見をしっかり聞くことを促しましょう。

- ③ 他人の意見を否定しないようにしましょう
 - 一見違うように思える意見も発展させたり、基本を考えたりすると意外と共通点があったりします。他の意見はむしろ発展させたり、相乗りして、より良いアイデアに発展させましょう。

【各テーブルの取りまとめ内容】

テーブル1

- (1) 札幌で参加できるボランティアが一目でわかる一覧を作る。
- (2) 休耕地農園をシェアし、収穫祭を開く。(単発の行事からまちづくりの一步とする。)
- (3) 雪まつりを、より市民参加色の強い祭りへと発展させる。

テーブル2

- (1) 若者による地下歩行空間の活性化
- (2) 情報発信方法の検討
- (3) 札幌市の公認キャラクター

テーブル3

- (1) 子育て環境の充実
- (2) 娯楽の充実
- (3) 国際都市への施策

テーブル4

- (1) まちづくりへの参画体制を管理できる人員の確保
- (2) 市民へのアプローチ方法の模索
- (3) 一步を踏み出す勇気を持つ。

テーブル5

- (1) 子どもはケンカして当たり前・大人の意識改革
- (2) 学生世代の人材活用

テーブル6

- (1) まちづくり参画に対する敷居を低くする。
- (2) 余裕や遊び心を持つ。
- (3) 行政主導ではなく市民からのボトムアップのまちづくりを目指す。

テーブル7

- (1) 札幌の綺麗な街並み
- (2) コミュニティカフェの増設
- (3) 市政に興味を持つ。
- (4) 中学・高校の教育の場でまちづくりを教える。
- (5) 広告の利用
- (6) フリーペーパーを活用して若者へ積極的なPR
- (7) 市民のモラル向上
- (8) 商店を増やす。

テーブル8

- (1) 情報を知る環境を整える。
- (2) 目安箱の設置
- (3) 世代を超えた意見交換の場の提供

テーブル9

- (1) 市の中心部にも緑がある環境づくり
- (2) 教育レベルの平均化
- (3) 公共施設での遊び場の提供
- (4) 共働きでも町内会に参加できる仕組み
- (5) 市民のモラル向上
- (6) 情報発信・受信のインフラ整備
- (7) まず札幌市主催のイベントに参加する。

テーブル10

- (1) 札幌町内会活動
- (2) 自転車ルール・マナーの徹底

テーブル11

- (1) はじめての雪
- (2) 雪の公園
- (3) 冬期間の野外一泊体験

テーブル12

- (1) まちづくりセンターの市民へのアピール (知らない市民が多い。)
- (2) 札幌駅と大通りが地下で繋がってありがたい。
- (3) 地下鉄の営業時間を延長して欲しい。
- (4) 地下鉄の営業時間を延長して欲しい。
- (5) 市中心部への自転車乗り入れ&駐輪をもっと自由にして欲しい。
- (6) 除雪のやり方：ルートや実施時期を事前に知らせる。
- (7) まちづくりセンターで震災の時に助けは求められるのか、何を協力できるのか。
- (10) 町内の付き合いが今一つとつきにくい。

企業に対し

- (1) 企業の地域貢献を進める。(個人として活動する時間がない。)
- (2) 企業の社会貢献を実施する。
- (3) ゴミ拾いや、会社前の清掃をする。
- (4) 社会人のボランティア活動に対する企業の理解を深めさせ、活動を高めるようにする。

交通について

- (1) 地下鉄の利用時間の延長、出来れば24時間営業 (署名活動)

- (2) 地下鉄の席にもっとみんなが座れるような心づかいを。
- (3) 地下鉄の深夜だけの民間委託をしてはどうか。

【総 評】

- ・短時間でのグループディスカッションであったものの、総じて活発な意見交換が行われていた。
- ・一部テーブル（7と9と12）でテーマを絞り切ることができなかったものの、これはファシリテーターのコミュニケーション不足も考慮し慎重に検証し、次回以降への反省材料としたい。

第4章 アンケート結果

<参加依頼事前回収アンケート>

今回の討議会に参加承諾いただいた市民を対象に、事前にアンケートにご協力いただきました。

大項目を2つ設定し、「Ⅰ. 札幌の魅力について」と「Ⅱ. 社会経済情勢の変化に伴う札幌のまちの課題」についてお聞きしました。

「Ⅰ」では、問1から問4まで計4問とし、問1については設問を5分野に分け、更に評価項目を5項目ずつ設定したうえで札幌の魅力に関して5段階で評価していただきました。

「Ⅱ」では、問5から問7まで計3問とし、問5についてはまちづくりの課題例を9項目に分けたうえで、その重要度の高・低の評価を伺いました。併せて問6では、地域コミュニティの強化と市民自治について5項目を設定したうえで、その重要度を5段階で評価していただきました。

Ⅰ 札幌のまちの魅力についてお聞きします

問1 札幌で暮らしていて実感できることのうち、各項目についてどの程度魅力的だと感じますか。以下の各項目について5段階でお答えください。(項目ごとに○は1つずつ)

分野	評価項目	札幌のまちの魅力度					わからない	平均値
		魅力度が						
		高い	←————→			低い		
		5	4	3	2	1	0	
① 環境・自然	1.1) 四季の変化に富んでいる	22	12	3	0	0	0	4.51
	1.2) 雪がもたらす自然環境を楽しむことができる	16	12	5	3	1	0	4.05
	1.3) 市街地では公園・緑地帯・河川などが多いうえ、とても整備されている	14	10	10	3	0	0	3.95
	1.4) まちが清潔に保たれており、ごみの減量や省資源化への取組が盛んである	5	16	9	6	0	1	3.46
	1.5) 家庭や企業など場所を問わず、省エネルギーへの取組が盛んである	3	5	11	5	4	9	2.22
② 文化・歴史	2.1) シンボルとなる建物や史跡が豊富である	8	6	15	6	2	0	3.32
	2.2) 郷土学・民俗学などを身近で学び伝える風土が根付いている	3	4	6	15	5	4	2.27
	2.3) 多種多様なスポーツを楽しむことができる環境や機会が多い	5	6	16	7	2	1	3.05
	2.4) 芸術・文化・趣味・教養に触れることができる場所や機会が多い	3	11	12	6	4	1	3.00
	2.5) 自然と調和した美しい街並みや景観が形成・保全されている	5	14	11	5	2	0	3.41
③ 地域	3.1) 町内会・自治会などの地域活動が盛んで、参加する住民も多い	1	3	16	6	5	6	2.22
	3.2) 子どもを安心して産み育てる環境が整っている	1	4	12	10	5	5	2.22
	3.3) 子育て支援・介護支援に地域が一体感を持って取り組んでいる	2	3	11	8	7	6	2.11
	3.4) 医療や福祉サービスが充実している	2	7	13	9	3	3	2.65
	3.5) 防犯・防災に向き合い安心安全な環境が整備されている	2	3	16	12	2	2	2.59
④ 経済	4.1) 生活基盤となる安定した雇用が十分に創出されている	1	1	9	14	10	2	2.00
	4.2) 高齢者や障がい者の雇用が十分に創出されている	3	2	5	11	8	8	1.84
	4.3) 北海道ならではの地産地消の食文化が発達している	8	16	6	3	2	2	3.51
	4.4) 多種多様な分野で新しいビジネスを起業させる環境が整っている	2	3	9	7	2	14	1.76
	4.5) いわば札幌ブランドとも言うべき優秀なモノやサービスが創出・開発されている	4	12	10	8	1	2	3.11
⑤ 国際都市	5.1) 海外との流通がモノや文化など多くの面で活発である	3	3	14	8	3	6	2.38
	5.2) 海外から多くの観光客が訪れ、またそれだけの観光資源が豊富である	7	15	8	3	3	1	3.46
	5.3) 車に頼らずとも、利便性の高い公共交通機関が発達している	4	12	6	8	7	0	2.95
	5.4) 国際的に優れた芸術文化・スポーツが根付いており交流の後押しができています	2	5	14	8	4	4	2.49
	5.5) 高度な医療機関や研究機関、また教育機関が発達している	2	8	16	5	3	3	2.78

問1の結果、環境や自然には十分にまちの魅力を意識できているようであるが、その反面、地域や経済については一定の魅力を感じる意識レベルに乏しいことが伺えます。

問2	上記“問1”の設問①から⑤を、札幌のまちづくりに重要だと考えられる項目順に並べて下さい。	重要度	高	←		→	低	平均値
		①	4	4	17	7	4	
		②	3	3	3	15	12	2.11
		③	12	13	4	6	1	3.70
		④	16	13	7	0	0	4.14
		⑤	1	3	5	8	19	1.81

問3	札幌のまちの“良い”ところを簡潔に表すと？ 深く考えずに、頭に思い描かれた語句やイメージを右枠内に端的にお書き下さい	代表的な回答例	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 明るい、街並みが美しい、さわやか、清潔、四季 ・ 自然に触れ合い易いうえに充分な大都市である(自然と街の調和) ・ 店などが中心部に集中して移動が便利、利便性、住み易い ・ 天災が少ない、空気・水・食糧が新鮮、観光地 	

問4	札幌のまちの“悪い”ところを簡潔に表すと？ 深く考えずに、頭に思い描かれた語句やイメージを右枠内に端的にお書き下さい	代表的な回答例	
		<ul style="list-style-type: none"> ・ マナーが悪い(自動車の運転、ゴミ出し) ・ 車社会中心景気(経済) ・ 所得水準の低さ ・ 文化がない(新しい物好きで流動的である) ・ 短期集中の気質 ・ 特に冬の降雪に伴う渋滞、交通の便 ・ 中心部への集中過多、雑然、地域格差 ・ 中途半端、無関心 ・ 新しい技術の導入が遅い ・ 子供の遊び場が少ない ・ 防犯面が不安、公共に関するサービスの低下 	

問2では、問1での結果を反映してか、地域・経済を重要視する意見が多数いることがわかります。

また問3では、自然（四季）に対して良いイメージを札幌に抱いている市民が多いことがわかります。

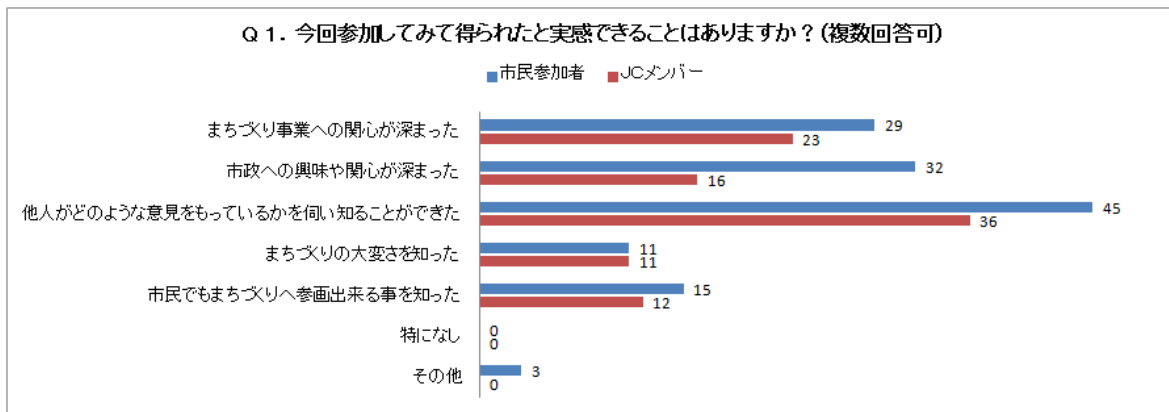
問4では、都心部集中型の札幌の構造を指摘する意見や、子供の遊び場が少ないと言った具体例に始まり市民同士の無関心を指摘する意見が出されるなど、地域コミュニティを不安視している様子が伺えます。

なお、問1で低評価であった経済に対して具体的なイメージを指摘している例が少ない半面、問1や問3で自然について好意的な傾向が表れているにも関わらず、冬の降雪・除雪に対する悪いイメージ・意見を抱えている市民が多いことが確認できます。

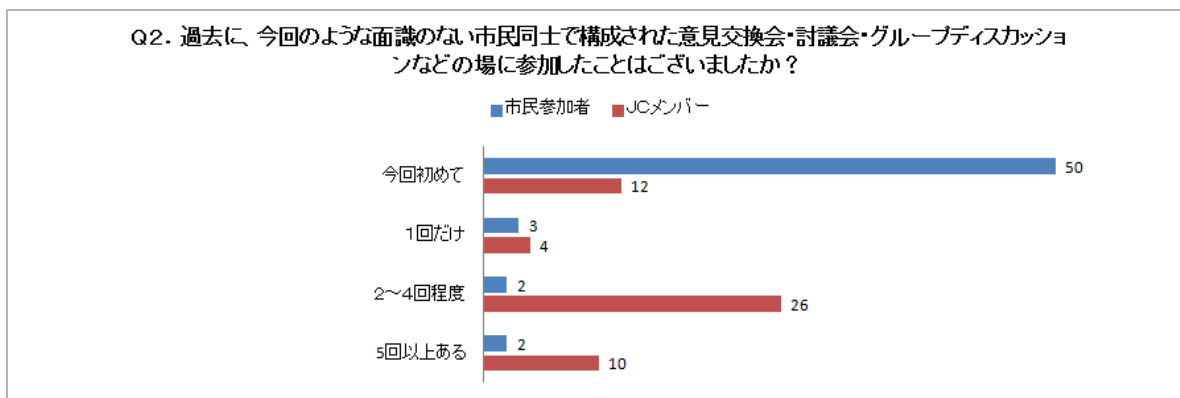
2 参加者当日回収事後アンケート

今回の討議会を通じての感想を確認するために、終了前にアンケートのご協力をいただきました。

開催の目的や当日の流れにもとづいた選択肢方式の10項目に加え、感じたことを自由に記載していただきました。

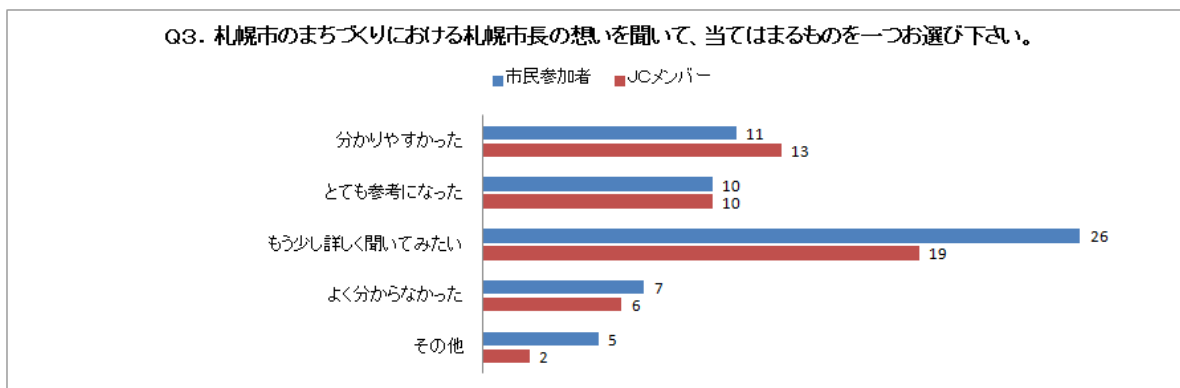


複数回答が可能な問ではあるが、参加者皆一様にまちづくりへの関心を持っている事がわかります。加えて、周囲がどのような意見をもっているのかを知らないで過ごしている傾向がある事もわかりました。

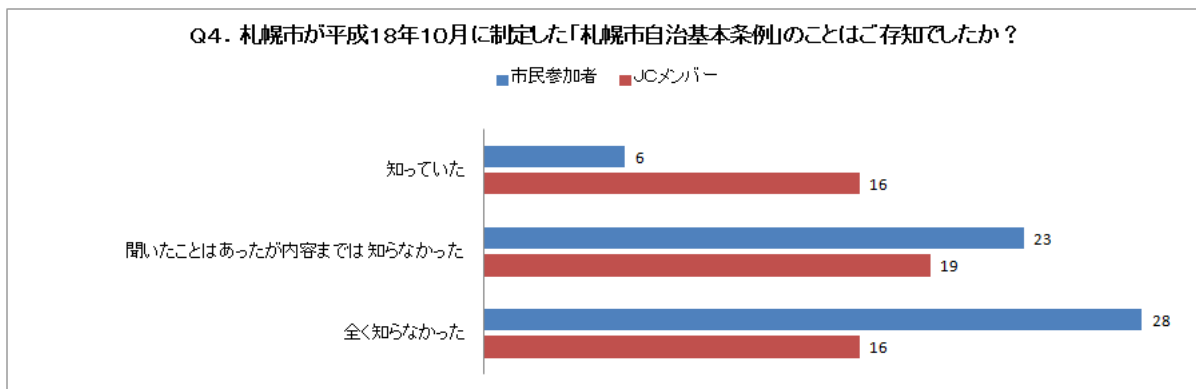


参加者のほとんどが、この種の会議に初参加となっています。

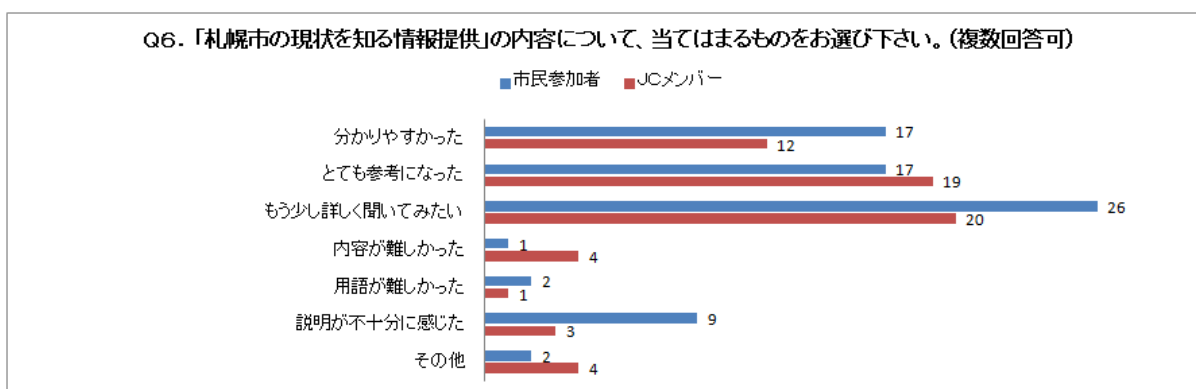
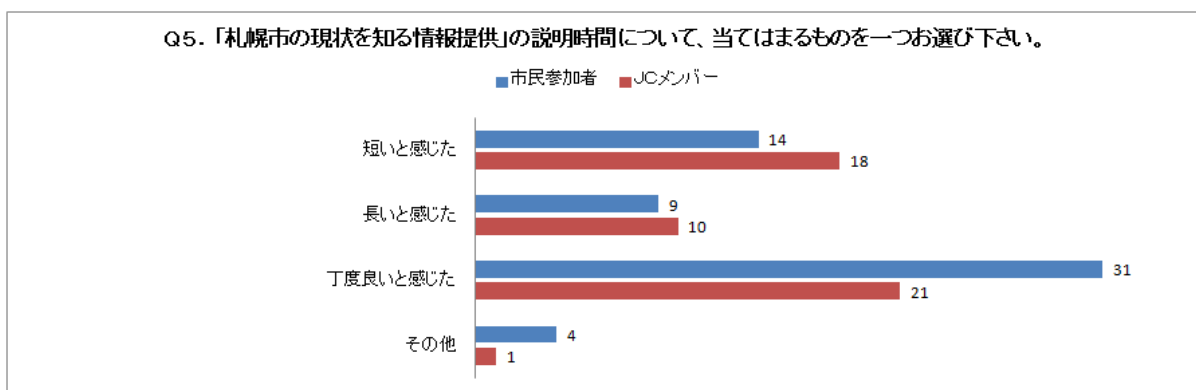
しかし、思いのほか活発な意見交換が出来ていた事を考えると、まちづくりに対し尻込みせずに積極的に参画できる仕組みが構築出来れば、今後も十分な会議を開催出来る可能性を感じます。



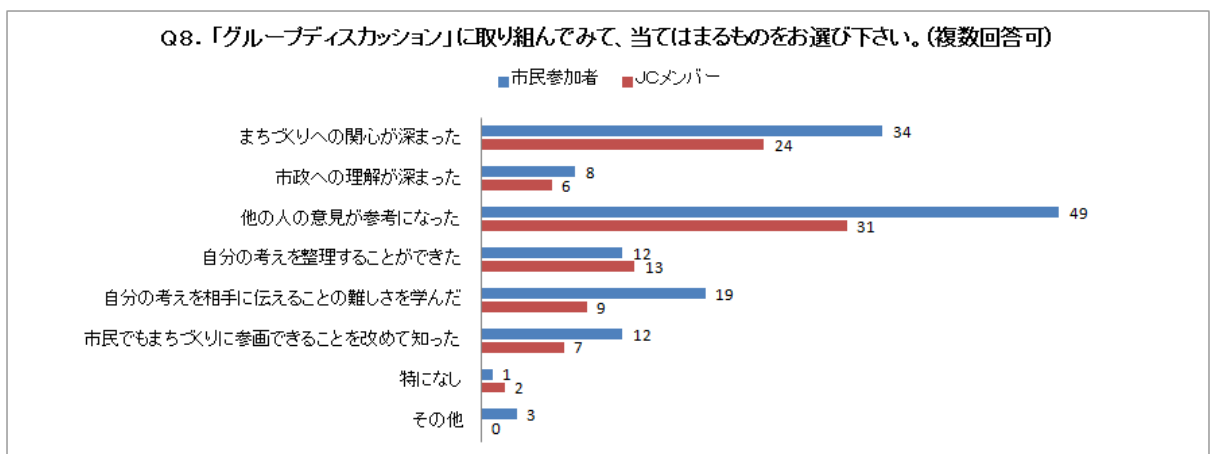
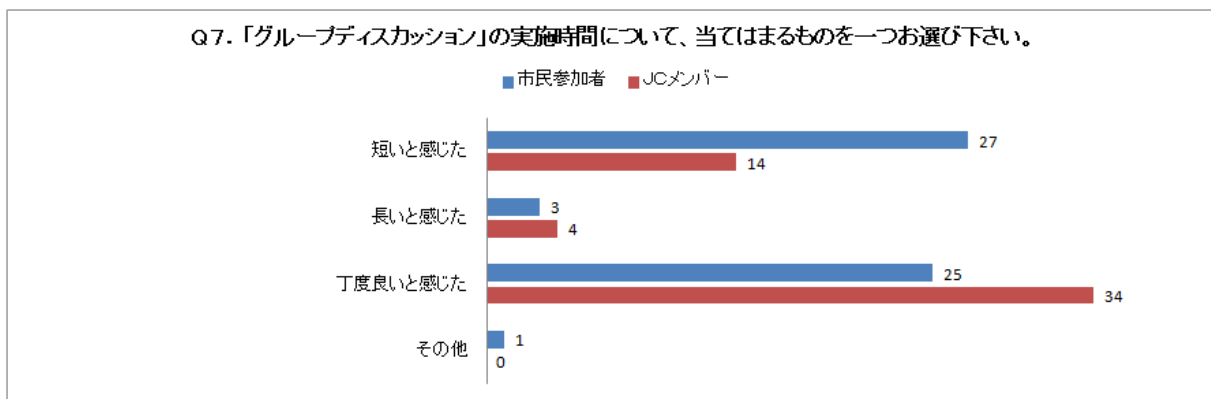
概ね趣旨を理解していただけており、更に詳しく知りたいという前向きな意見が多いのも特徴です。



およそ90%の市民が内容を理解出来ていない事がわかり、市政との隔たりを改めて痛感しました。

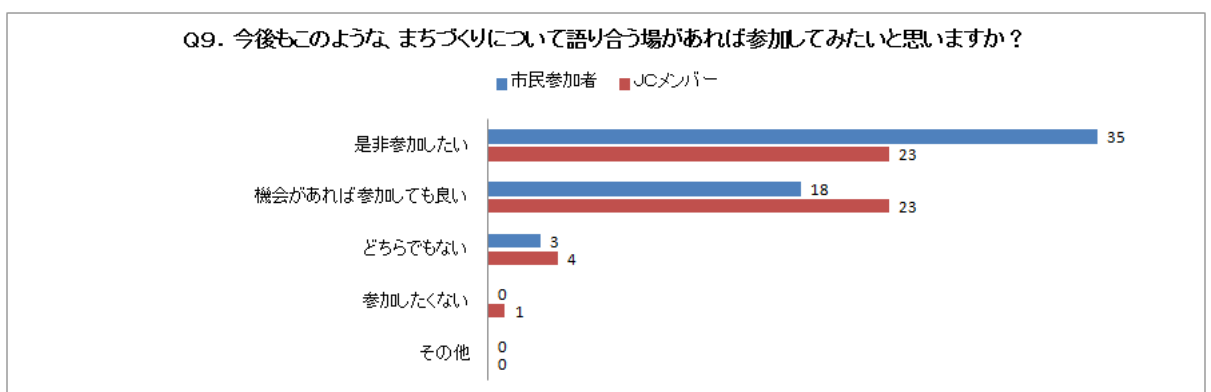


半数以上が説明時間の長さを丁度良いと答えているにもかかわらず、もう少し詳しく聞いてみたいと感じている市民が多い事から、札幌市の現状について一定の興味を抱いていただく事には成功したと推測出来ます。

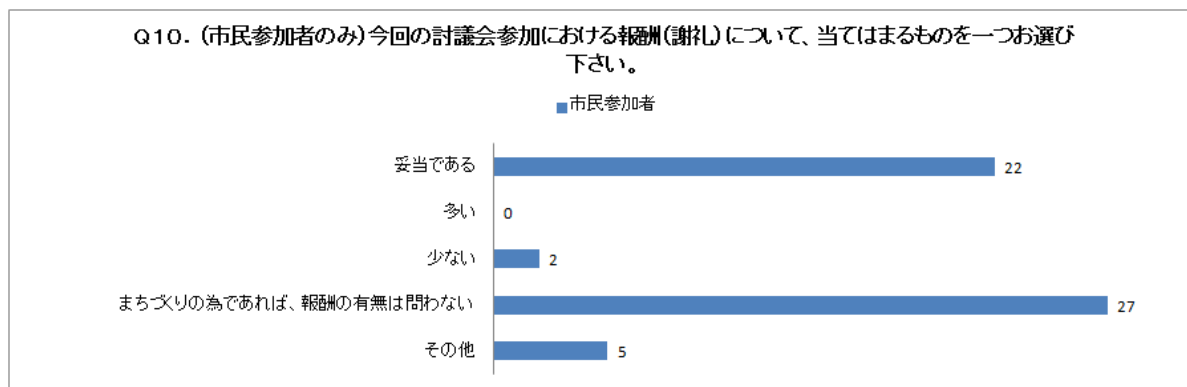


90%を超える参加者が実施時間について丁度良いもしくは短いと感じている事から、概ね適切な時間配分だったと考えます。

しかし、参加規模や討議テーマにより実態は異なる事も予測しながら、相応の時間設定を行っていく事が得策と感じます。



参加者の93%が参加意欲を示している事から、同様の討議会を積極的に開催出来る可能性を示唆出来る結果を得る事が出来ました。



札幌市が企画する同種の会議報酬より安価ではあったが、概ね理解を示していただけました。

Q11. その他にお気づきの点があればご自由にお書き下さい。

<主な意見>

- ・大変有意義な催しだと思いますので継続して欲しい。
- ・今後も市民参加の語り合う場があればいいと思いました
- ・非常に勉強となり、とても良い時間でした
- ・まちづくりというテーマが漠然過ぎて中身のない会だと感じた。
- ・何の為に実施しているのか？論点が明確でない。ゆえにディスカッションも実にならない。
- ・具体的にテーマを絞った方が考えやすく話し合いがしやすいと思う。
- ・このような機会があれば、また参加したいと思います。討論会は初めてでしたが楽しかったです。
- ・グループディスカッションでも出た意見ですが、地下鉄の24時間営業を是非して欲しいです。
- ・まちづくりの中の「〇〇について」等のテーマを絞った方が意見を出し易かった。
- ・事前にもう少し内容がわかっていたら意見を整理してこれた。
- ・初対面の方々と札幌について語り合う機会がなかなかない。とても貴重な時間。
- ・今回の企画の趣旨が今一つ明確になっていなかったように思えます。
- ・普段考える機会がなかったのに、考えることが出来る場が出来て良かったのかもしれない・・・。
- ・ディスカッションにおいても、議題をもっと前から提示していただきたい。
- ・副市長が、直でお話しできる機会も欲しいです。
- ・他にも討議会の情報が欲しいです。
- ・副市長の話は、興味深い時間が短く中途半場。詳しく聞いてみたかった。
- ・軽い気持ちで参加できるような、環境だとよいと思いました。
- ・参加することで変わるものがあると、思いました。
- ・テーマがあまりわからないまま始まったので、最初はポカンとしていました。
- ・学生や他業種がいたことで、市の現状や今後の生活の考え方を整理できて、良い時間。
- ・上田市長と直接お会いできず、残念でした。
- ・札幌市に移り住んでいる者として、札幌市は世界的に見ても、素晴らしいところがある街だ。
- ・この一回の取り組みでは、一発打ち上げの的でどう市政へつなげて頂けるのか繋がるのか疑問。
- ・障害のある人たちも、住みやすいまちにしてほしい。
- ・副市長の子供の成長の話聞き、もっと勉強したいと思います。
- ・またこのグループとかで、話し合いが出来ればと思います。
- ・このように討議する機会、人の意見を聴く機会は、中々ないので参加できてうれしかったです。
- ・もう少し質疑応答やディスカッションの時間を多めにとっていただけるとありがたいと思いました。
- ・ディスカッションで中々うまくまとめられなかった。もっと沢山の意見も聞いてみたい。
- ・いろいろな世代の方と、意見交換が出来良い経験になりました。
- ・時間が少なく、もう少し話し合いをしたかった。
- ・講義の時間より、グループディスカッションの時間を取って欲しかった。
- ・はじめて遭った方々と、いろんなお話が出来た点はとても良い経験でした。
- ・市民の意識が変われば、もっとより良い札幌へ変わると思いました。
- ・若者はたくさん意見を持っていることが分かった。今後もこういった討議会の開催が必要。

第5章 会議の検証

冒頭の開催目的にも記述のとおり、札幌市が平成19年に施行した「自治基本条例」に基づき自治体も市民が主役のまちづくりを推進してきましたが、今日まで市民が主体性をもった活動はまだ定着していません。そのような中、J Cが市民のけん引役として行政と市民との橋渡し役を担い、市民が集い、自らの声や想いを届ける場を創出しようと考えた結果、本討議会を開催するに至りました。

開催後のアンケート結果からも推測できるとおり、まちづくりへの関心を示す市民が多く、またこのような場があれば積極的に参加していきたいと改めて感じた市民が非常に多いことがわかり、“まちづくりへ参画する場の創出”といった側面で考えると一定の成果を上げることができたと判断できます。

しかしその反面、“市民主導の第一歩”を念頭に市民が参画できる場の創出に比重が傾いた感が否めず、ディスカッション時のテーマを具体的に絞り込んでいなかったことから、内容が漠然とし過ぎていて混乱した参加者も散見されました。

今回の評価できる点と反省点を活かし、場の創出といったレベルを乗り越え、近い将来市民が主導で具体的テーマに基づいたまちづくりへ参画できる仕組み作りを今後も継続していくことが望まれます。

1 参加者の選定について

参加者を一般募集してしまうと、まちづくりに対し元来より興味をもった市民しか応募してこない可能性を懸念し、札幌市の協力のもと住民基本台帳を活用した無作為抽出により募集案内を行い承諾者を募りました。加えて、主催するJ Cが20歳から40歳までの会員組織であることから、同世代の市民との交流を検討した結果、募集案内は性別を問わず20代～30代を中心に行いました。

また、事後アンケート・Q9から、参加した9割以上の市民が同様の会が開催される場合には今後も参加したいという積極的な意見を持つ市民が多いことから、まちづくりに対し市民が能動的な参加を期待している様子が推測できます。

2 会議の運営について

(1) 会議の日程について

今回は就労者・就学者の市民でも参加し易いように、土曜日一日間での開催といたしました。当日の時間配分については事後アンケートによると、「札幌市の現状を知る情報提供」では半数以上の参加者が“丁度良い”と回答している半面、「グループディスカッション」に関しては“丁度良い”と回答した参加者（43.9%）を“短い”と感じた参加者（47.4%）が上回る結果となりました。

→「討議会」として参加していただく以上は、参加者同士の情報共有も大切ではあるがしっかりとコミュニケーションを図り議論し合っただけの時間の確保に努めるよう、設定テーマにもとづき工夫する必要があります。

(2) 経費について

参加者に責任感を持っていただくこと、また参加意欲の向上を図るために一人あたり3千円の報酬（謝礼）を支給いたしました。

事後アンケートによると、“妥当”もしくは“まちづくりのためであれば報酬額は問わない”と

回答した参加者が全体の86%を占めました。

(3) 会議資料について

郵送による事前配布として参加承諾書とともに参加者アンケートをお配りし、その集計結果の一部を当日の説明資料用に活用いたしました。

基本的には難しい資料の事前配布は行わず、当日に「札幌市の現状を知る情報提供」と題した勉強会を討議の前に組み込み、円滑な意見交換へ繋げていただくよう努めました。事後アンケートによると、半数を超える参加者が勉強会の時間配分を“丁度良い”と回答しております。

(4) 討論の方法

1 グループ5名前後での構成とし、受付時にくじ引き抽選で座席を決めました。

募集対象年齢を20代から30代を中心としていたことから、バランスの良いグループ構成とすることが出来ました。ファシリテーターについては、技量に個人差が出ないように当日（開会前）に対象者用の説明会を開催し、概ね円滑な進行ができていました。但し、事後アンケートからも読み取れますが、グループディスカッションにおけるテーマ全般が絞り切れないまま進行している傾向もありました。

一開催目的にもあるとおり今回は“まちづくりに参画する場の創出”という担いもあることから必須課題は設定しませんでした。しかし、進行の方向性や議論の明確化を図るためにも、こういった討議会に初めて参加するような市民の心情を考慮すると、グループ毎に任意に課題を見つけ出して議論するだけではなく、主催者から各グループ共通の必須課題を一題でも出した方が、まとまりのあるディスカッションにつながれると考えます。

3 その他

(1) 参加者の情報公開について

今回は、市民のオブザーブ参加及び報道関係者にも公開して行いました。参加者本人の個人情報の取り扱いに関しては、事前に郵送した「委員募集のご案内」及び「参加承諾書」書中に“札幌市と（社）札幌青年会議所の両者が取り扱い～”“適切に管理するとともに本目的以外に使用致しません”などと記載したことに加え、事後アンケート文末にも当会議所の実施目的以外には使用いたしません”と記載のうえ対応しておりましたが、事前は勿論終了後も参加者からの異議・苦情・質問類は特段ありません。

(2) 参加者人数について

2,000名への募集案内に対し100名の参加者を見込んでおりましたが、目標を下回る参加人数となりました。今回は、札幌市が開催する同類の会議とは違い、参加者への報酬（謝礼）が少額（札幌市の場合@8,000円前後のところ、@3,000円）であることの影響が考えられます。

(3) 広報について

JCホームページへの開催案内の掲載及び、市民のオブザーブ参加を募るため報道関係者へプレ

スリリースを行いました。そして、北海道新聞（8月17日付）に記事が掲載され15名の市民が傍聴いたしました。

第6章 討議会を受けての札幌市の在るべき姿について

我がまち札幌への提案 ～グループディスカッションを経て～

57名の市民から、多種多様な意見をいただくことができました。

ここでは、参加者を代表し（社）札幌青年会議所がこの意見を取りまとめたうえで、共催した札幌市へご提案するものであります。

各グループ毎の意見・アイデアは第3章-3に記載のとおりですが、これまでまちづくりや市政への参加経験が乏しい市民でも実現出来る可能性を持っているであろう提案・意見を、その中から3点選ぶ事としました。

- ①札幌市の公認キャラクター
- ②市民へのアプローチ方法の模索／情報の発信・受信のインフラ整備
- ③世代を超えた意見交換の場の提供

1 札幌市の公認キャラクター

(1) 選定理由

ゆるキャラ全盛期の今日にとって、無視できない項目かも知れません。札幌市には、円山動物園やテレビ塔のほか、民間を含むいくつかの施設で独自にキャラクターを活用している団体はありますが、札幌市を即座に連想させるキャラクターは確かに居ません。

(2) 実現性

選定委員会のような組織づくりは必要と感じますが、データのメール受信や郵送入校の方法をとれば普段市街地を訪れる事が困難な市民にも広く参加を募る事ができます。

2 市民へのアプローチ方法の模索／情報の発信・受信のインフラ整備

(1) 選定理由

ほとんどのグループでこれらの情報インフラの不足点を問題視していました。

(2) 実現性

これまで受動的かも知れなかった市民が、少なくとも今回の参加者だけでも情報インフラの必要性を訴えている事から、従前からの会報誌やダイレクトメールのポスティングや郵送、近年発達してきたインターネットやメールマガジン、SNSなどを含めて、どのようなインフラが老若男女問わず有効な手段と成り得るか、市民主導で検証して道筋を開拓出来れば良いと考えます。

3 世代を超えた意見交換の場の提供

(1) 選定理由

上記2と同様、多くのグループで地域コミュニティの醸成を望む声が聞かれました。

(2) 実現性

地域での人のつながりを大切にしたい、町内会の活動を活性化させたいなどの意見を中心とし、中には若者が町内会の中心として活性化していくべきといった率先的な意見も聞かれたので、新しい何かを一から作るのではなくても、町内会という既存のコミュニティを活用してまちづくりの活性化を図れる可能性があります。

2011年度（社）札幌青年会議所 八月「力強いまち構築」例会
「青年による札幌のための討議会」事業報告書
平成23年11月 発行

編集 発行：社団法人 札幌青年会議所 市民協働室
札幌市中央区北1条西2丁目 北海道経済センター9F
TEL (011) 222-1439 / FAX (011) 864-8893
協力：札幌市 市民まちづくり局 市民自治推進課
札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市役所13F
TEL (011) 211-2253 / FAX (011) 218-5156